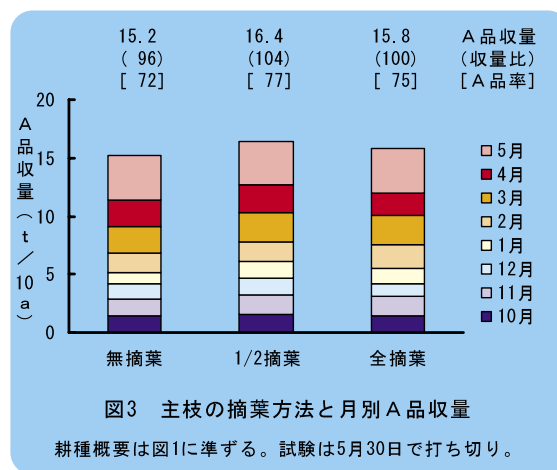
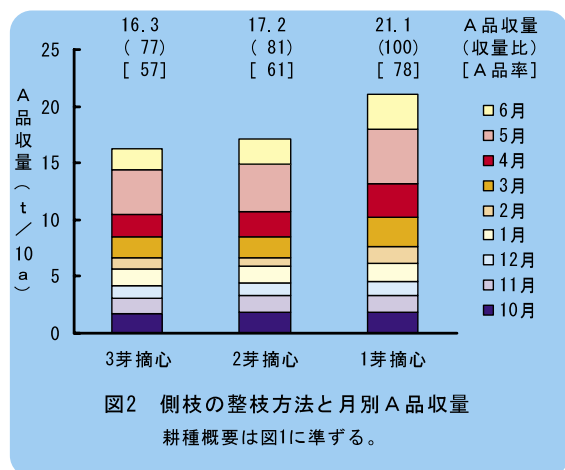
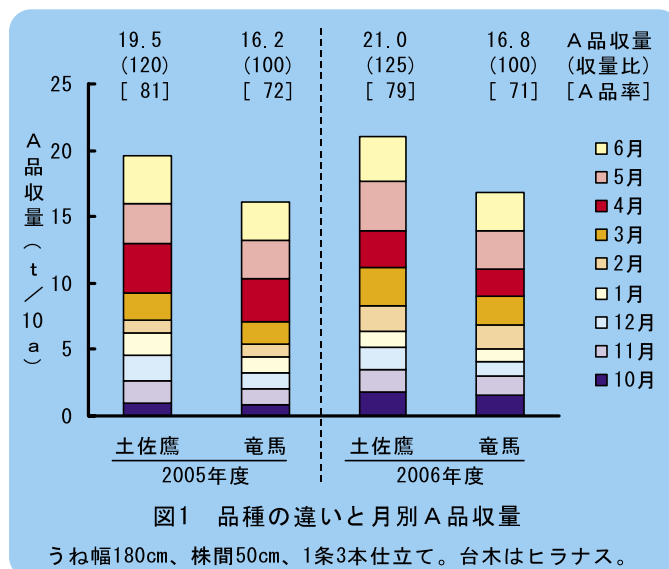


「高知ナス」新品種 ‘土佐鷹’ の促成栽培



当センターで育成した「高知ナス」の新品種 ‘土佐鷹’ の促成栽培技術について検討しました。

‘土佐鷹’ は、慣行品種の ‘竜馬’ に比べてA品率が高く、A品収量は20～25%多い多収性の品種であることが明らかとなりました(図1)。

側枝の整枝方法について、第1次側枝を3芽摘心、2芽摘心および1芽摘心として比較したところ、A品収量は1芽摘心で最も多く、3芽摘心または2芽摘心では著しく少なくなりました(図2)。

主枝の摘葉方法について、無摘葉(黄化葉および罹病葉のみ摘除)、1/2摘葉(主枝

の果実の収穫時にうね内向きの葉を1枚摘除し、通路向きの葉は無摘除)および全摘葉(主枝の果実の収穫時に収穫節位下の2枚を摘除)としたところ、A品収量は1/2摘葉でやや多くなりました。一方、無摘葉では青ベタ果や赤果が多く、A品収量は少なくなりました(図3)。

そのほか、台木はヒラナスおよびトナシムのどちらでも適用できることが認められました。

現在、これらの試験結果を活用して ‘土佐鷹’ の普及をすすめているところです。

(施設野菜担当 橋本和泉 088-863-4918)